

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成19年9月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2873300517		
法人名	医療法人尚和会		
事業所名	グループホーム ケアホーム伊丹		
所在地	(〒 664-0003) 兵庫県伊丹市大野1丁目3-2		
	電話	072-777-7272	
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区荻乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成19年6月26日	評価確定日	平成19年9月15日

【情報提供票より】 [平成19年6月15日 事業所記入の同書面より要点を転記]

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年11月1日		
ユニット数	2ユニット (利用定員…計12人)		
職員数	10	(常勤10人) (非常勤0人)	/ 常勤換算10人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	地上5階建て建物の 4階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000円	その他の経費(月額)	11,550円	
敷金の有・無	有り (300,000円) ・ 無し			
保証金の有・無 (入居一時金含む)	有り () ・ 無し	(保証金有りの場合) 保証金償却の有・無	有り ・ 無し	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1日あたり		1,500円	

(4) 利用者の概要 (平成19年6月26日 現在)

利用者人数	計12名 … (男性1名) (女性11名)		
要介護1	1名	要介護2	3名
要介護3	4名	要介護4	2名
要介護5	2名	要支援2	0名
年齢	平均86.3歳 … (最低76歳) (最高96歳)		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人尚和会宝塚第一病院	かわむら歯科
---------	---------------	--------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

敷地内に、診療所、介護老人保健施設、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所を併設する。系列に宝塚第一病院を持ち、医療面において、入居者はもちろん、職員に与える安心感は大い。1階の庭園や菜園…4階の屋上庭園…と、敷地内の木々や四季折々の草花に触れながら散策ができる。シャトルバスも用意され、ご家族の行き来にも、また、利用者への外出支援の手段として多く活用されている。また、各種の検討会も多く行なわれ、研修システムも充実しており、サービス向上に向けた「学び」の姿勢が強く感じられる。関係諸団体との交流も積極的で、実習生を含めたボランティア訪問は延べ550人を超えている。社会還元活動にも熱心に取り組み、ホームは地域にとって大切に位置付けになっている。◎添付の資料写真も参照

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回評価においても特別な改善課題はなかったが、評価の内容を関係者が皆が意識できている。サービスの質を高めるべく、新たな課題、目標設定に努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	スタッフ全員で評価に取り組んでいる。自己評価を利用者の「尊厳維持、自立支援、利用者本位、自己決定の意義等」を再確認するためのツールとして用い、皆で議論し、ケアの改善への材料にしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6)
	会議は概ね4か月に1回程度開催している。ホーム職員・利用者・ご家族代表・地域住民・民生委員・行政職員等が参加している。ホームの現状・行事予定・クラブ活動や研修実績などの報告など、会議での意見や助言をケアサービスの向上に活かしている。今後は、地域包括センターの職員の協力を得ることで、人権、福祉サービスの活用法、関連法令を学ぶ機会として、会議の機能をより充実させてもらいたい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	家族連絡メモを活用し、利用者の日常生活の様子や職員異動等について適宜に報告している。ケアホーム通信、電話、ファクスを利用して、入居者の様子、健康状態などは、逐一報告されている。家族会や家族アンケートも定期的実施し、ご意見や要望、提案を聴いている。それらは、毎月の職員会議や随時のカンファレンスにおいて検討し、全職員が情報を共有したうえで、ホーム運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
重点項目④	地域住民向けに、健康公開講座(年2回)と家庭介護教室(年2回)を開催し、施設の夏祭りや行事は、広域にパンフレットを配布して案内している。近隣住民や学生ボランティアや見学も数多く受け入れている。地域の子ども会には古紙回収を手伝ってもらうなど、日常においての地域とのつきあも深い。



▲ 入居者の手作りオブジェ「鳥」



▲ 菜園と協働による収穫物 庭



◇介護従事者、地域の方々ほか、関係皆様による「評価結果の活用」、「認知症ケアの理解」において、ご参照下さい。◇所定の書面様式に加補するページとして、事業所の確認も得ています。
◇プライバシーの配慮、個人情報保護の観点から、写真中の入居者のお顔、お名前については、失礼ながら適度の処理を施しております。(処理不要のお申出があればこの限りではありません。)

評価機関＝特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「であい ふれあい えがおの輪」の理念のもと、一人ひとりが快適な生活を送れるよう、個別性を重視し、入居者の尊厳を大切にされたケアを実践している。認知症対応型通所介護事業の展開、数多くのボランティアの受け入れ、コミュニティホールの開放など、地域住民との“であい、ふれあい”の機会を豊富に提供している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践策として、年間目標や月間目標を定めている。月間目標は、毎月評価を行なう。各職員は個別目標を設定し、目標達成に向けて半年毎に評価がなされ、課題についてモニタリングとフィードバックを行なっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民向けに健康公開講座(年2回)と家庭介護教室(年2回)を開催し、施設の夏祭りや行事は広域にパンフレットを配布して地域住民に案内をしている。近隣住民のボランティアや見学も数多く積極的に受け入れている。大学生、専門学校生などを対象とした学生ボランティア、中学生対象の「トライやるウィーク」も受け入れ、地域子供会には古紙回収を協力するなど、地域とのつきあいは深い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	利用者の尊厳維持、自立支援、利用者本位、自己決定等意義の再確認をし、さらなる改善へ活用している。また、評価結果の開示をきっかけに、関係者皆で情報を共有し、職員のスキルアップに役立てている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね4か月に1回程度で会議を開催し、ホームの現状・行事予定・クラブ活動実績・研修実績などの報告を行なっている。会議には、ホーム職員の他に、利用者代表、利用者家族代表、地域住民、民生委員、行政職員などが参加し、意見交換を行ない、サービス向上に活かしている。	○	運営推進会議を「学びの場」としても、工夫してほしい。
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームは、市介護相談員2名を受入れており、月1回来所され状況報告を受けている。市町担当者とは、実質的に週に1回程度話す機会がある。付き合いも長く、顔の見えるつながりになってきており、何事でも相談しやすい。また、市の主催行事には積極的に参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族連絡メモを活用し、利用者の日常生活の様子や職員異動等について報告している。家族会も定期的に行ない、月に1回発行している「ケアホーム通信」でも、個人の状態や職員異動等について報告をし、職員間も情報を共有している。利用者の健康状態や受診報告等については、電話やFAXを利用して随時報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートを定期的に行ない、家族会や運営推進会議の場で意見や希望、提案などを聴きとり、毎月開催されるケアホーム伊丹会議や随時に行なうカンファレンスなどで検討し、全職員が情報を共有したうえで、ホーム運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動時は必ず重複体制を取っている。職員異動等については随時家族に伝えるとともに、毎月発行するケアホーム通信でも報告している。ホーム職員の採用については、併設する介護老人保健施設にて認知症高齢者の介護を体験し、適した資質を有する者を配置する体制をとっている。		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修として、オリエンテーション後3か月間は、経験のある職員とペアになり(プリセプター制)個別OJTを実施している。各種研修については、教育委員会が中心となって職員アンケートをもとに、研修会や勉強会の内容を決め、定期的、臨時的に開催し、参加後は発表及び評価を行なっている。各種資格取得にあたっては援助制度を導入している。	○	職員専用の意見要望箱も食堂や更衣室に設置されている。施設長、副施設長、管理者がスーパーバイザーの役割を果たし、職員の日常における業務上の悩みやストレス等の聴き取りを行なっている。ストレスに関する研修会に定期的に参加するなど、今後これらには積極的に取り組んでほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	看護協会、伊丹市介護福祉士・介護支援専門員連絡会、老人保健施設協会等の会員として専門職の会議等に積極的に参加し、他施設での研修会や施設見学会にも出向き、質の向上に向けた取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の相談のほか、見学時においても、不安なこと…困っていること…を尋ねるようにしている。重要事項説明、入居手続、引越などにおいて話をしながら、急がず信頼関係を築いている。面談後は職員紹介、ダイルームで職員や他の利用者と共にお茶を飲みながら自己紹介や世間話をするなど、本人のペースを大切に、徐々に馴染んでいただく支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の“持てる力”を発揮してもえるよう、それぞれに役割分担を決めている。家事をはじめ、園芸、手芸、日本の風習など、個々の得意な分野や能力を引き出しながら、職員も学び、支えあう関係を築いている。花壇にも利用者手作りのオブジェ(鳥)の作品があり、微笑ましい。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から時間をかけて情報収集し、本人にとって自信のあることを見つけるように努め、そのときどきの思いや意向を把握している。言葉だけではなく、細かな表情や行動からも、これらを汲み取れている。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネジャーを中心に担当者を決め、日常生活や家族との交流を通して情報収集に努め、月に1回は職員全員で一人ひとりの利用者に対して、QOLの向上、自己実現をめざした達成可能な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアマネジャー・ケアスタッフ・看護師・管理者のチームを編成し、定期的には3ヵ月毎に、ケアプランに変更が生じた時は随時に、それぞれケアカンファレンスを開催し、見直しを行なっている。見直したケアプランは、家族等に報告および説明を行なった上で、承諾サインをもらっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームとしては、医療連携および認知症デイサービスを展開している。複合型施設のメリットを活かし、館内の他サービスを受ける利用者との交流もなされている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの1階にある大野診療所へは定期的を受診している。また、体調変化や希望に応じていつでも(24時間)連携が可能であり、適切な医療を受けられる体制がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制をとっており、重度の利用者に対して、より良く暮らせるよう看護師、管理者、職員、家族等でカンファレンスを行ない、「できること・できないこと」を話し合った上で、医療チームと密に情報交換をしながらターミナルケアに取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	各職員は、個人情報の取り扱いに注意し、利用者のプライバシーを保ち、個々の尊厳を大切にしている。一人ひとりに心身状態に適した言葉かけを行なっている。特に、入浴と排泄の介助時には羞恥心への配慮を心掛けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各職員は、一人ひとりの行動パターンを把握しており、会話や行動から本人の気持ちや思いを察知し、さりげない支援をしている。ゆったりとした会話を通して、感情を表出できるように配慮し、日常生活での入居者の意見を聴き、やりたいことの選択肢を提供している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月2回以上開かれる昼食パーティでは、献立を利用者と職員が一緒になって決め、得意なこと担当にしながら調理を協働し、職員も一緒に食事をしている。後片付けも役割を決め、利用者と職員が協働している。月1回の夕食や出前では、利用者と一緒に店やメニューを決めている。おやつも入居者と一緒に手作りすることも多い。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間や入浴回数は大まかに決めているが、希望すればいつでもできる。季節の湯(菖蒲湯やゆず湯)を楽しみ、日曜日には併設施設の大浴場を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居前後に情報収集した生活歴等を参考に、その人に見合った日常上の役割を決めている。その他には希望すること(塗り絵、計算、歌、体操、編み物、新聞購読、テレビ視聴等)の支援を行ない、手芸、書道、音楽、園芸、華道、茶道といったクラブ活動も充実している。季節の行事やレクリエーション行事も多数開催されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所内の庭は大変広く、ガーデニングを楽しみ、新聞取りやごみ捨てにも生活リハビリとして実施している。地域や自然のふれあいを重視し、近隣への散歩やドライブに出掛けるなど、少人数での外出支援を行なっている。また、家族の協力を得ながら、神社参り、バラ公園、飛行場見学、お花見などに出掛ける。家族会でのバーベキューや日帰り温泉ツアーも計画中。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、ホーム玄関は開放され、自由に過ごしている。テラスの扉を開閉すると、音楽が流れ、職員にもすぐにわかるようにしている。危険が予測される方については家族と相談の上、セキュリティ会社の位置情報サービスに加入し安全を見守っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルを整備し、防災設備についても周知している。年2回の消防訓練では利用者も避難訓練に参加し、地域(大野地区、自治会、子供会、PTA等)や併設する介護老人保健施設との連携を深め、協力を得られるようにしている。また、1週間に一度の防災点検(備蓄物品のチェック等)も欠かしていない。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士からアドバイスや指導を得て、摂取カロリーや栄養バランスについて配慮しており、水分不足気味の入居者は、できるだけ飲みやすい物を飲むように支援している。水分チェックの必要な入居者は、医師や看護師の助言を得て、摂取量を細かく記録し調整している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	デイルームは家庭的な雰囲気であり、また、屋上庭園ではベンチに座ってゆったりと過ごすことができる。ホーム内には入居者と活けた季節の花が置かれ、壁面には行事写真や入居者作品が飾られている。同フロアのリハビリテーション室が開放されており自由に行き来できるようになっている。1階ロビーには、菜園での収穫物も展示し、施設を利用する方の目にもケアの実践が身近に感じる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は使い慣れた家具や調度品を持ち込み、暖簾や作品、写真などで自分なりに飾りつけをし、安心して過ごせる場所となっている。自室が分かりにくい方は、表札として自分の手作りの作品をかけたり、居室内に名前入りの作品を置くなどの工夫が見られる。		

※  は、重点項目。